

私たちは「半文半理ワークショップ」を開催しました。「半文半理（はんぶんはんり）」という単語は、様々な物事がもつ“文化的な背景”と“科学的な背景”の両面を一举に学んでしまおうというコンセプトから作成した造語です。本企画では文系・理系のバックグラウンドをもつ講師・参加者・企画者の三者が活発に意見交換できる場を作り出すことを目指しました。テーマとしては「食」にスポットを当て、その中でも「発酵現象」に絞りました。工夫した点は、講師の方のお話の中にでてくるモノを参加者の前に提示したことです。「体感できるワークショップ」とすることで、講演内容が身近となること、また、参加者同士の会話のきっかけとなることを期待しました。

今回は2012年12月12日に「香りで味わうお酒 講座」（講師：富岡伸一氏）、同月19日に「発酵の魅力発見 講座」（講師：福留奈美氏）の2つの半文半理ワークショップを開催しました。両日合わせて60名近くの参加者が集まり、五感を存分に使いながらお酒・味噌・醤油を体験し、それらの文化的・科学的背景とともに味わうことができました。さらに、感想をシートに記入しながらのテイスティングを行ったことで、初対面の参加者同士でも感想を交わし合う様子が多く見られ、会場はとても賑やかな雰囲気となりました。講演後のアンケートでは90%以上の方に、「非常に満足・満足」との解答をしていただくことができました。



今回の学生自主企画を通して学んだことは、一つのイベントを「企画する」ということが多くの人と適切なコミュニケーションをとりながら進めていく必要がある難しい作業だということです。これは実社会における問題解決をする際にも必要とされるスキルだと思います。そして、自分の思っていること・やりたいことを相手に伝え、相手を企画に巻き込んでいくことが、リーダーとなるために必要なことなのだと感じました。「半文半理ワークショップ」では文理に拘らずに意見交換をする場を作り出すことを目的としていました。本企画によって体験型の講義・文理融合というテーマの二点を兼ね備えたイベントに対する需要が学生の中にあることを実感しました。今後もこのような機会があればさらに活発な「半文半理ワークショップ」を開催していきたいと考えています。